

第3回 目黒区生物多様性地域戦略（仮称）策定検討委員会次第

日時 平成25年6月7日(金)
午後6時30分から

場所 目黒区総合庁舎地下1階
第15・16会議室

- | | | |
|---|-----------------------------------|------|
| 1 | 開会 | 委員長 |
| | (1) 傍聴及び議事録について | |
| | (2) 委員の出欠について | |
| | (3) 事務局からの連絡 | |
| 2 | 議事 | 委員長 |
| | (1) 第2回策定検討委員会の意見と検討事項の確認 | 資料 1 |
| | (2) 基本方針（案）について | |
| | ア 計画のテーマと名称について | 資料 2 |
| | イ 生物多様性を言い換えた言葉について | 資料 3 |
| | ウ 将来像と目標について | 資料 4 |
| | 時が培う 目黒区の生物多様性 | 資料 5 |
| | エ 施策について | 資料 6 |
| | 配慮事項について | 資料 7 |
| | オ 地域戦略の構成について | 資料 8 |
| | (3) その他 | |
| | ア 区民意見募集のスケジュールについて | 資料 9 |
| 3 | 第4回目黒区生物多様性地域戦略（仮称）策定検討委員会の日程について | |

次回 平成25年10月3日

以 上

(会議配布資料)

- 資料 1 委員会意見への対応要約
- 資料 2 計画のテーマと名称について
- 資料 3 生物多様性を言い換えた言葉について
- 資料 4 将来像と目標について
- 資料 5 時が培う 目黒区の生物多様性
- 資料 6 施策について
- 資料 7 配慮事項について
- 資料 8 地域戦略の構成について
- 資料 9 区民意見募集のスケジュールについて

(その他資料)

- 別資料 第 2 回会議録
- 別資料 第二回検討委員会_追加意見まとめ
- 別資料 植物調査(春季)速報
- 別資料 委員からの施策に対する事前意見
- 別資料 意見の追加提出用紙

以 上

第 1 回委員会意見への対応(更新)

No.	論 点	委員からの意見	方 向 性	対 応 案
1	目黒区原風景をどのように扱うか	<p>●矢野委員： 目黒区周辺の本来の森林の姿は常緑樹林であり、これもふるさとの風景であると思う。雑木林だけではなく、鎮守の森のような常緑樹林も加えてよいのではないか。</p> <p>●上田委員： 自然を回復するというときに、どの自然に回復するのかという問題もある。</p> <p>●委員長： 人間がいない状態に戻すことはできないので、人間にとって住みやすい環境も考慮に入れて今後の議論を進めたい。</p> <p>●委員長： 都市部では、生物の入れ替わりも起きており、人為的な影響の良否は、増えた鳥の種類、減少した種がいないかなどを慎重に分析する必要がある。</p>	<p>人の手で育まれてきた環境（風景）も含め、多様な環境が混在していることも都市の自然特性としてとらえる。</p> <p>①目黒区が目指す自然との共生の在り方を考える。</p> <p>②回復目標の時代を想定する。</p> <p>③常緑樹林の価値を再検討する。</p> <p>④人間にとって住みやすい環境と生物多様性が確保された環境とのギャップを検討する。</p>	<p>①およそ 80 年前の昭和初期の、人と自然の接し方などを想定する。</p> <p>③いきもの气象台観察ノート（2011 年目黒区）の環境区分を利用する。</p> <p>④生き物が増えることは、時に不快な面があることを区民に周知する。例えば、桜の木を街路樹で植えるときれいな花が咲き、視覚的に美しいという面と虫や鳥が集まり、糞の被害などが発生するという負の面がある。</p> <p>→原風景は上述の 7 区分を利用する。屋敷林に社寺林の区分を加え、常緑樹林も含む。 →不快性や、人に対して害を与える生物については、国家戦略の記載を参考に記述する。</p>

	環境区分※	コンセプト	具体例
1	庭地	小さくても多様ないきものが賑わうみどり。多種の植物。陰陽・乾湿の環境	目黒区全域の住宅地
2	小さな水辺	いきものたちのゆりかご・ビオトープ	学校等のビオトープ
3	屋敷林	住宅地にみどりの島のように残る樹林	古民家、都市緑地
4	草はら	原っぱ・草地・野の風景。畑	中目黒公園、東京大学
5	雑木林	手入れによって伝えられる林	駒場野公園、菅刈公園他
6	都市の森	大きな樹林地・大木のある公園（崖線のみどり）	駒場地区、林試の森、街の森(みどりの基本計画)
7	広がりのある水辺	川・池―海とつながる川と池	目黒川、呑川。碑文谷池、清水池。駒場野公園の田んぼ

※環境区分：「いきもの气象台観察ノート(2011 年目黒区発行)」より

2	<p>生物多様性をどう評価（計る）するのか。指標はどうするか。</p>	<p>●上田委員：生物多様性をどのような計るのか。</p>	<p>親しまれている身近な生物について、これまでのデータを活用して指標化を図り、生物多様性の評価を行う。生物以外の指標も検討する。</p> <p>①現状の仕組みにおいて把握し得る指標の抽出を図る。</p> <p>②JBO の活用価値、あるいは関係性の整理</p> <p>③象徴的指標の整理</p> <p>④観察時の留意点の整理</p> <p>⑤消費行動など、生物種以外の指標も検討</p> <p>⑥外来生物の扱い</p>	<p>①③④環境基本計画の指標種もしくは80選から選定する。なお、80選からは選定済み。</p> <p>⑤配慮事項に盛り込む。⑥外来生物の取り扱いについては、侵略的な外来生物の中から目黒区で記録のある種、もしくは確認されそうな種を外来生物の指標種として、区民からの目撃情報などを収集し監視する。</p> <p>→自然通信員等の野鳥やチョウの指標種の地域別(小学校の通学区域)分布状況、変化等の観察記録を基礎データとして活用する。また、区が有する地表性の昆虫などの専門調査データを、自然性の指標とする。</p>
3	<p>目黒区が目指すべき環境像は？(生物多様性のイメージ)</p>	<p>●上田委員： ミクロの生物の世界では大木1本にも生物多様性がある。このような多様性の保全も重要である。</p> <p>●西村委員：人が自然にどう手を加えるべきなのか難しい。</p> <p>●矢野委員：アオオサムシ等の地表性の虫やこれを捕食するヒキガエルなどの普通種が減少している。生態系の上位に位置するカラスが多いことの影響が懸念される。</p> <p>●上田委員：大きな屋敷が取り壊され庭の緑が減少する事例もあり個人宅の庭に依存している目黒区の緑は危機的な状況にある。</p>	<p>一本の木、一鉢の花、身近な自然から生まれる「生物多様性にやさしい」暮らし・活動・まちを目指す。</p> <p>①何を守るべきか 大木、土壤生物、野鳥、伝統、里山の暮らし方、暮らしの知恵・・・</p> <p>②重要な戦略は何か 普及啓発、教育(初等教育は、生物多様性に配慮した暮らし方に作用する)、協働</p> <p>③行動指針(施策) 我々の生活が、地域の生物多様性、さらに広範囲の生物多様性にどのように関係するかを整理する。特に重要と思われるものに限定し、掘り下げる。</p>	<p>※施策整理表、目標参照</p> <p>①「まもる」における施策</p> <p>②「ふれあう」における施策</p> <p>③計画で提案する配慮事項に盛り込む。</p> <p>→目標の設定、施策の展開の中で特に重要視していく。</p>

4	<p>生物多様性の教育・啓発について</p>	<p>●委員長： 都市はいわゆる豊かな自然がある場所ではなく、啓蒙や教育などが重要になる。これが、郊外との違いとなる。</p> <p>●渡島委員： 子供にも自然のつながり(鳥と虫の関係など)を理解でき、実際の活動につながるようなものとしたい。未来を担う子供達に理解させることが重要である。</p> <p>●早野委員： 緑に触れる機会の少ない生活をしている方、関心のない方にも関心を持ってもらいたい。土地を持たない方もいるため、机の上で植物を育てるなどの発信も必要ではないか。</p> <p>●市田委員： 野菜や魚を買うといった消費行動にも生物多様性は含まれており、都市生活者がどのように自然の恵みを享受しているかを感じることも含めてほしい。</p>	<p>日々の暮らしの中で、特にこどもたちと自然の関りを再構築</p> <p>①原体験としてのいのちの大切さ、いのちのつながりの気づき</p> <p>②日常の空間でのふれあいの機会と場の創出</p> <p>③小学校、中学校など学校教育での取り組み</p> <p>④消費活動、食育、地産地消等の取り組み</p>	<p>※施策整理表、目標参照</p> <p>①～④「ふれあう」における施策</p> <p>→目標の設定、施策の展開の中で特に重要視していく。</p>
5	<p>生物多様性という文言について(代替できるやさしいことば)</p>	<p>●市田委員：「生物多様性」に代わる言葉を作れないか？</p> <p>●委員長：一般の方に分かりやすい言葉でタイトルを付けてもよいのではないか。「自然のめぐみ」などはどうか。</p> <p>●石川委員：「人とい</p>	<p>「生物多様性に替わるわかりやすい言葉」への転換</p> <p>①いくつかの案を検討し、委員会の名称、地域戦略の名称等へ反映する。②サブタイトルとメインタイトルの二つで表す。③「まちづくり」の視点を入れる</p>	<p>→今回提案した。</p> <p>①・③(例)・ささえあういのち→ささえあういのちの基本計画 ささえあういのち・いきもの基本プラン・つながるいのち→つながるいのちの基本計画・自然のめぐみ→めぐろ自然のめぐみの分かちあい計画・自然と共生→人といきものが共生する街づくり計画 めぐる</p>

		<p>きものが共生する街づくり」というのもよい。</p> <p>●委員長：「街づくり」など都市型であることをアピールする言葉が入っていた方がよい。</p> <p>●上田委員：これまで目黒区が使っている「いきもの」という平仮名での表現がよい。</p>		<p>いきもの共和国推進計画・しなやかないのちの流れ→しなやかないのちの流れを伝える基本計画・みんな心地よい→みんな心地よいめぐろいきもの再生計画・いきもののにぎわい→いきもののにぎわいとつながりの基本計画②（例）メインタイトル 野鳥のすめるまちづくりサブタイトル ささえあういのちの基本計画</p>
6	<p>エコロジカルネットワークの形成について</p>	<p>●副委員長： エコロジカルネットワークは、陸、水、空を利用する生物によって異なると考えられるが、全て同じように取り扱うのか？特定のものに着目するのか？</p> <p>●石川委員： 鳥をとおして地域の自然や環境に視野を広げることが可能ではないか？</p> <p>●委員長： 生物多様性としては全ての生物を取り扱うべきであるが、観察しやすいものを指標とせざるを得ない。区がこれまで指標としていた鳥以外に指標として想定されるものがあればご提案いただきたい。</p>	<p>野鳥やチョウをシンボルとして、広域から近隣街区、一人ひとりの足元までつながるいきもののネットワークの形成を図る。</p> <p>①広域的なゾーンから、街区、個々の敷地にいたるまでエコロジカルネットワークの形成を図る。</p> <p>②隣接区の動植物現況、活動施策のネットワークを抽出する。</p> <p>③野鳥、チョウ、地表性昆虫などの指標を用いる。</p> <p>④ネットワーク形成の阻害要因を抽出する。</p>	<p>①生き物の生息環境となりうるビオトープ、緑地、公園などを整備する施策を立てる。</p> <p>②隣接区における指標種の確認状況は整理済である。したがって、移入移出の可能性については言及可能である。</p> <p>③環境基本計画の指標種もしくは80選から選定された指標種を活用。</p> <p>④道路による地表性動物の移動分散の阻害など、目黒区で考えられる事例を抽出。</p> <p>→上述の考えとし、根拠となる資料収集を継続する。</p>

第2回委員会意見への対応

No.	論 点	委員からの意見	方 向 性	対 応 案
1	公園整備等のあり方について	<p>●上田委員： 計画の目標の中で、一人当たりの面積拡大とあるが、生物多様性では“土”が重要である。したがって、公園はできるだけ“土”のある公園にすることが生物多様性の観点から重要と考えられる。</p>	公園の土のある部分の確保と保全	<p>①生物多様性を考える上で、土が重要であることを区民に知らせ、区民や活動団体の自主的な公園整備に際し、土についても配慮してもらおう。</p> <p>②生物多様性配慮指針において、土の確保について言及する。</p>
2	懇談会について	<p>●委員長： 委員は講師として参加することも考えられる。また、参加希望者ができるだけ気軽に参加できるものが望ましい。</p> <p>●西村委員： 親子連れイベントが良い。商店街の自然、住宅地の自然、公園の自然といったように色々なテーマがあっても良い。</p> <p>●早野委員： 環境ナビゲーター参加者の活動の場となれば良い。</p> <p>●市田委員： 商店街は生物多様性を考えるうえで、キーワードとなる。八百屋、魚屋で売っている商品がどこから来たのかについて懇談できる場も重要と考える。</p>	<p>①区民が参加しやすく、生物多様性の普及啓発にもつながる懇談会の検討</p> <p>②委員と区の役割分担</p>	<p>①→整理した別資料あり。</p> <p>地域や参加団体の特性を活かした懇談会とする。</p> <p>②懇談会の区民参加対象を、親同伴の子どもたちから参加可能とする。</p> <p>③委員の参加やかかわりもお願いしていく。</p>

3	基本テーマについて	<p>●矢野委員： 鳥の場合は人間から距離のある生き物である。ツバメにしてもシジュウカラにしてもウグイスにしてもそうである。ところが、虫の場合は非常に近くに接することができる。それから、観察会でも子供たちは虫が好きである。したがって、鳥と虫をうまく組み合わせると良い計画ができるのではないか。</p>	80選選定時における区民から選ばれた生き物を中心に、どのような種もしくは分類群をシンボルとすべきか検討する。	<p>→整理した別資料あり。</p> <p>計画は、区民によく知れ渡る必要があることから、ある特定の種を選定せず、わかりやすい分類群(鳥類)を昆虫なども含むすべての生物の「代表選手」として設定した。いきもの80選など、区民に親しまれている身近な生物も活用していく。</p> <p>【例1】移動範囲の広さによる区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥類 (広範囲な生き物の代表) ・チョウ類 (区内全域で確認可能) ・ヒキガエル (生息環境が限定されている) <p>【例2】環境による区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥類・チョウ類 (空の代表) ・爬虫類両生類・昆虫類 (地の代表) ・水生生物種群 (水辺の代表)
---	-----------	--	--	---

第2回委員追加意見への対応

No.	論 点	委員からの意見	方 向 性 対 応 案
1	目黒区原風景をどのように扱うか	<p>●副委員長： ・「ア 目黒区原風景をどのように扱うか 2) 検討の方向性」にある「常緑樹林の価値を再検討する」という記述と、同項目の表中にある環境区分との関係がよく理解できなかった。</p> <p>・指標種という種アプローチに加えて、指標種群という群集アプローチもこれだけデータがあれば検討に値する。</p> <p>・里山の暮らし方は目黒区に残っているか、また復活するための情報は記録されているか。 ・地域の伝統的文化の内容を詳しく知り、里山の暮らし方と関連付けて検討したい。</p>	<p>→前述 対応した</p> <p>検討中</p> <p>郷土研究誌の中に、かつて、雑木やま、杉やま、茅やまなど、里山を想起する地域の呼称があった旨の記述がある。駒場野公園では炭焼きを行っている。</p>

		<p>●早野委員： 目黒区原風景の扱いは、昭和初期を想定とあるが、具体的な映像が浮かばない。「見える化」という言葉があるが、原風景の写真の共有や学生から理想とする緑の風景の作品を募集、表彰し、風景に一定のイメージを描かせたりすることで、将来構想も具体的に描けると思う。</p>	→対応する
2	基本テーマについて	<p>●副委員長： ・区内で記録された種の分析を行う必要がある。これまでに行われたことを知りたい。</p>	→例として、別資料②参照
		<p>・活動と伝えるのは少しニュアンスが違うように感じるが、伝えるに代わる言葉は見つからない。活動の方を代えて参加・参画でもいい。</p>	検討中
		<p>・目標3の公園面積だが、生態系にとっては実面積が大事だと思う。</p>	量の確保とともに質の向上を図る、といった表現にする
		<p>●矢野委員： 資料2ウ. 目黒区の生物多様性の現状例と主な課題について 最近東京では、暖地性の植物の増加やチョウの温暖化による北上現象がみられている。生物季節では春の花の早まり、秋の紅葉の遅れなどがみられるため生物の変動の記録を長年取り続け、都市化と生物の実態も明らかにしたい。</p>	これまでのデータを解析する
		<p>これまで目黒区では「野鳥のすめるまちづくり計画」を推進して成果を上げているが鳥は人間との距離があり、また個体数も少なく接触頻度がやや低い。チョウは比較的人气も高く、個人の庭や公園などにチョウの幼虫の食草や蜜源植物を植えれば身近に観察することができる。チョウが増えれば、クモ・ハチ・カマキリなどの捕食者も増え、これらの小動物を捕食する鳥類のすめる街づくりへと繋がるのでは。「蝶が舞い小鳥がさえずる街づくり」を提案したい。</p>	→野鳥をすべてのいきものの代表選手として扱う
		<p>●早野委員：野鳥の名前が分かる人は少ないので、ヤモリ等のように身近な生き物に関心を集めるのはどうか。ヤモリは吸盤ではなく、手足の裏にある剛毛が持つ「ファンデルワールス力」でへばりついている。人類は自然界に潜む不思議な能力を分析し、生活に応用してきた。今回のプロジェクト関わっている理科の先生方の力も御借りしたい。</p>	→親しまれているいきものとして活用する
3	施策の方向性（施策の方向性と柱立て）	<p>●副委員長： ・郷土種の植栽と関連して雑種を作る近縁種の植栽を慎むように配慮する場所（駒場野公園とか）を決めた方が良い。なお、雑種の実生が成長しなければよいとも思える。</p>	→生物多様性保全林の指定施策と絡めて検討する
		<p>・東京都公園協会管理の都立公園に対してもっと区からの要求を突き付けていくといい。東京都で展開しようとしている都立公園の生物多様性のプロジェクトのなかでも地元の区との連携が委員から提案されている。</p>	計画作りに関わっていたあくことを検討

		<p>・区立ではない学校（事業者のようなもの）に対しても、自分のキャンパスとその周囲の自然に目を向け、消費行動を考え、目黒区の活動にも参加したくなるように誘導していきたい。</p>	
		<p>●市田委員： 目黒の自然を考えると、神社・寺・個人の庭・学校・公園が挙げられる。現存する「みどりの散歩道」を活かして、修正していくのが現実的であり、「みどりの散歩道」を見直し、愛知ターゲットと照らし合わせながら施策を進めていくのがいいと思う。</p>	→歩くことの施策を重要視する。
		<p>●矢野委員： 資料3-1の「生物ネットワーク拠点」の図だが、樹木と草本の種類数の構成だけだと左の小さな公園ほど緑が豊かであると誤解されやすい。いろいろなデータがあると思うので、公園の面積、管理方法、森林構造、草地の種類、園芸種・外来種・在来種などの比率など別のものさしで分析するとチョウや鳥の種類数と環境の違いがもう少しはっきりするのではないかと。チョウ・鳥ともに種類数はかなり高い値となっている。「〇〇年から現在までの〇〇年間に記録された全種類数」と書いた方がよい。</p>	→整理する
4	懇談会について	<p>●副委員長： ・懇談会は委員が分担して参画したい。</p> <p>●市田委員： 懇談会では、都市の消費者としての視点や、目黒に残すべき伝承すべき文化についても触れられるようにしてほしい。都市型の生物多様性保全をより強調できればと思うが、その場合、参加者には「生物多様性」ということを理解しにくいのではないかと。その部分をフォローしながら伝えられるといい。</p> <p>●早野委員： 懇談会を夏休みに設定し、小学生から大学生までの意見交換会が開催されることを期待する。グループ討論の機会を設けるなど、出席者自身が参加したことに満足感を覚えるような懇談会にしたい。</p>	→今回整理
5	「80選のいきものたち（仮称）」の作成について	<p>●副委員長： 一般区民へ早く情報の提供をするために、ダイジェスト版を区のHPで閲覧できるようにするとよい。</p> <p>●早野委員： 80種類の生き物が選ばれたので、第1位のヤモリだけに焦点を当てておくのではなく、主人公はヤモリ、舞台は林試の森や神社の緑の中で暮らす80選のいきもの達の世界を物語にして展開してみてもどうか。例えば、懇談会では居住区ごとにグループを作り、ワークショップを行い、小学生や中学生が展開する話を、高校生や大学生が受けて絵本のような世界に仕立てる作業は時間と手間はかかりますが、愛着のあるものが生まれてくるように思う。</p>	学校の先生に協力を求め編集作業を進める
6	「平成24年度の各種調査結果 地表性昆虫調査（補足調査）の結果（2012年9月実施）」の作成について	<p>●矢野委員： 資料6平成24年度の各種調査結果の「地表性昆虫調査の結果の表」について「地表性昆虫」も「アリ」も一応土壌動物図鑑に含まれている。次の「土壌動物」はベートトラップで収集された土壌動物が何を差しているのかわからないが、「その他ダンゴムシ？」など代表種で示したほうがよいと思う。</p>	→整理する

7	その他	<p>●副委員長： ・民俗や文化財関係の方から里山や地域の文化や技術の伝承について聞きたい。</p>	<p>→めぐろ歴史資料館職員(学芸員)に協力を求める</p>
		<p>●矢野委員： みんなで選んだいきもの80選のトップ「ヤモリ」の『ゆるキャラ』について 名称候補「ヤモリン」又は「ヤモン」などかわいいものにする。目は黒。行動は忍者の如く敏速。夜は光る。手や体にマジックテープをはりつける。 特技：抱擁（ハグ）・しっぽ切り再生・虫捕り。</p> <div data-bbox="456 640 1273 1081" style="text-align: center;"> </div>	<p>できる内容は未定だが、イベント等に活かす</p>